



■保護者の皆様へ

中学校では、学校生活のきまりをはじめ、勉強の仕方や学校生活などで小学校とは異なるところがたくさんあります。その一つに「進路の学習」があります。進路の学習は自分の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を身に付ける「子どもが自立するための学習」であり、各中学校では入学当初から計画的に実施しています。

子どもたちは、将来、社会人として自立し、自分の人生を生きていかなければなりません。そのような中、学校教育では、日々の学校生活や授業、体験活動、行事等を経験する中で学んだことや考えたことを積み重ねながら、学校での学びを社会・職業へとつなげていく必要があります。そのため、子どもたちの社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の推進が求められています。

保護者の皆様には、このパンフレットを通して、中学校で行われる進路の学習（キャリア教育）について御理解をいただくとともに、家庭でも将来や生き方について話し合う機会を持ち、夢や希望の実現に向けて努力する子どもたちを支援していただきたいと思います。

平成29年3月
栃木県教育委員会

進路の学習って？

中学校における進路の学習については分かりましたが、保護者として何をすればよいのでしょうか？



中学校で進路についての学習をしているのは知っていますが、何のための学習で、どのように行われているのかよく分かりません…



Q1 中学校で行う進路の学習とは、どのようなものですか。

進学指導から
生き方指導へ

進路の選択に当たっては、自分の興味・関心や適性等を重視することが大切になりますが、かつてはそれらにあまり重きをおかずに、合格の可能性のみで高等学校を選択する傾向も見られました。このことが、高等学校における学業や生活に対して目的や意義を見いだせずに、学校生活不適應に陥ったり、中途退学したりする一因であるとも言われています。

そこで、各中学校では、生徒自身が自分を見つめ、夢や希望を持って将来を描き、よりよい人生を自ら切り拓いていくための学習に力を入れるようになりました。

進路の学習は「どう生きるか」をテーマにしているため、教師側では「生き方指導」と呼ぶこともあり、次の三つの柱で成り立っています。また、現在ではこれまでの進路の学習を中心にキャリア教育が進められています。

「キャリア教育」に関する情報は、文部科学省のホームページ（下記アドレス）を御参照ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm

- ① 自分のよさや得意なことを見つけさせ、それらを進んで生かそうとする意欲や態度を育てる。
- ② 様々な生き方、社会参加の仕方があることを理解させる。
- ③ 「何を大切に生きて生きるか」ということを考えさせる。

Q2 自分のよさを見つけ伸ばしていくために、どのような進路の学習をしていますか。

自己理解

自分自身のことを知らなければ、どのように自分を生かしていったらよいかも分かりません。

そこで、教師は様々な場面において、子どもたちが自分のよさや得意なことを見だし、それらを伸ばし生かしていこうという気持ちを持たせるようにしています。

例えば、学級活動の時間に自分の個性、適性、興味・関心等について調べたり、まとめたりして自己理解を深めさせるばかりでなく、各教科の学習においても自分のことを自分で評価したり、子どもたち同士で評価し合ったりして自分を見つめる機会を多く持っています。

体験活動の充実

さらに、職場体験活動や福祉施設などでの奉仕体験活動等の体験活動を充実させ、自分についてのより確かな理解を促しています。

Q3 様々な生き方、特に職業について理解するためにどのような学習をしていますか。

学級活動の充実

生き方には多くの選択肢があることを中学生の時期に知ることは、自分を生かし、自分らしく生きていくために必要なことです。

特に、職業については将来の生き方に深く関わってきますので、よく理解することが大切です。

そこで、中学校では、3年間を通して主に学級活動の時間において職業について学びます。個々の職業の特性やその職業に就くために必要な事柄等についても学習しますが、「人は仕事に就き働くことで、互いに支え合い生活している。」という社会のしくみを理解できるようにしています。

職業と学ぶこと
との関係

さらに、職業と学ぶこととの関係を理解するための学習もしています。自分の能力や知識・技能によってこそ自己を生かす機会や可能性を広げることができることに気づき、急速に変化する社会において生涯にわたって学び続けることの大切さを自覚できるようにしています。

Q4 「何を大切に生きていくのか」を考える進路の学習とは、どのようなものですか。

生き方の方向性
を示す価値観

様々なライフスタイルがある時代だからこそ、「自分は、何を大切に生きていくのか」という生き方の道しるべともなるべき価値観を、子どもたちに身に付けさせることが必要です。

前向きに生きようとする意欲や
態度

このための学習は学級活動の時間だけでなく、各教科や道徳、総合的な学習の時間等でも行われています。現在の青少年の姿を見ていますと、特に望ましい勤労観や職業観を育てることが急務ですが、同時にどのような地域活動や生涯学習に参加するのか、どのような余暇生活を送るのかということも含めて考えさせ、目的を持って前向きに生きようとする意欲や態度を培うようにしています。

Q5 子どもの個性を捉え、それを伸ばすにはどうすればよいでしょうか。

自分のよさ
自分の長所

子どもの個性は、家庭や学校など周りの人たちの影響や生活経験、努力などによって次第に形作られるものです。また、それは行動や性格、学習、運動、職業に対する興味・関心、趣味や特技など多くの面から捉えることができます。

そこで、様々な角度から子どものよさや長所を見つけ、それらを子ども自身に、自分のよさや長所として自覚させることが大切です。

また、よさや長所を生かせる職業は何か、自分を自分らしく輝かせることのできる進路（生き方）はどのようなものであるかを子ども自身にしっかりと考えさせることも大切です。

そのために、保護者は子どもの「よき理解者」、「よき援助者」となることが大切ではないかと考えます。

Q6 保護者として、「働くことの意義」を教えたいのですが、どのように伝えたらよいのでしょうか。

親の職業に対する思い

子どもの進路希望、とりわけ将来の職業に関する希望については、保護者の「働くこと」に対する考え方や態度が大きく影響すると言われています。そこで、日常の会話の中でそれとなく、またときには改まって、「働くことの喜び」や「世の中の実態や厳しさ」などについて語りかけることが大切です。同時に、それらについて子どもに考えを自由に言わせてみることによって、「働くことの意義」が少しずつ理解されていくと思います。

目前のテストや成績のことだけを気にしたり、話題にしたりするのではなく、我が子の「人生の案内役」を務める親として、子どもと共に現実の社会や具体的な職業について話し合いを深めることは、子どもの職業観や夢を育てる上で大切なことです。

また、「子は親の背中を見て育つ」と言われます。子どもは保護者の働く姿や地域行事等へ参加する姿を見て、職業に対する考えや生き方を自然に学んでいくものと考えます。

Q7 保護者として子どもの進路選択に当たって、どのようなアドバイスをすればよいのでしょうか。

しっかりした「進路計画」

子どもが中学校卒業後の進路を適切に選択するということは、将来を見通して立てた「進路計画」の第一歩を踏み出すということです。適切な進路選択ができるかどうかは、いかにしっかりした進路計画を作成できるかにかかっています。

自分の責任で選択

具体的には、希望する職業の中で、自分の特性をどのように生かしていこうと考えているか、仕事の内容と必要な能力・適性について理解しているか、卒業後の進路が将来の希望する職業と結びつくものであるかなどについて、子ども自身に考えさせるとともに、保護者自身も十分に吟味して話し合いをする必要があります。

実現に向けての努力

その際、進路は自分の責任で選び、進路計画の実現に向け努力することが大切であることを強調しておくといよいでしょう。

Q8 保護者として学校にはどのように協力していけばよいのでしょうか。

進路の学習に関心を持つ

中学校の3年間を通して行われる生き方指導としての進路の学習は、学校内での教育活動だけでは十分なものにはなりません。

まず、保護者として子どもがこれまでにどのような進路の学習をしているのか、その内容や状況について関心を持つことが大切です。このことによって、我が子の進路に対する助言がより確かなものになります。

積極的な情報のやりとり

また、家庭訪問や教育相談以外でも、特に学級担任と進路の学習についての情報のやりとりを積極的に行うといよいでしょう。共通理解を図ることができれば具体的な場面での連携・協力が可能になり、より効果的な進路の学習が実現できます。

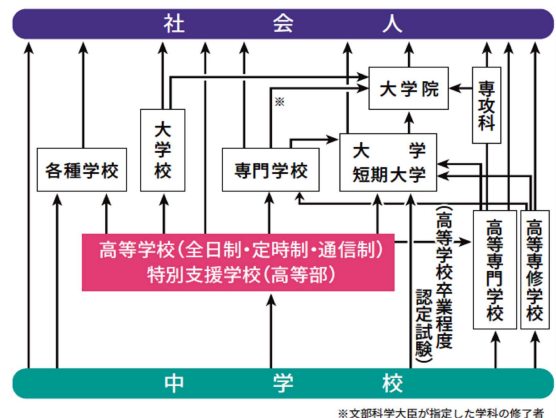
ぜひ、保護者として、また社会人として、豊かな人生経験や考え方を夢の実現に向けて人生設計を立てていく子どもたちのために役立てていただきたいと思います。

県立高等学校の種類や特色

中学校卒業後の進路は、右の図のように様々です。自分の能力や適性を十分に生かし、生きがいのある生活を実現することができる進路を選択することが大切です。

教育を取り巻く社会環境が大きく変化する中、時代に即した教育活動を展開するため、県立高等学校でも様々な取組が行われています。

ここでは、県立高等学校の種類や特色について概要を紹介しますが、より詳しくは、中学校の学級担任や進路担当の先生に聞くなどして正確な情報を入手してください。



Q1 県立高等学校の種類や特色化の取組について教えてください。

新しいタイプの学校

栃木県では、総合選択制高校などの新しいタイプの学校を設置するなど、県立高等学校の特色化を進めてきました。（栃木県に設置されている主な学校のタイプは右図のとおりです。）

また、全ての県立高等学校が、教育活動の重点を示した「目指す学校像」等に基づき、特色化に取り組んでいます。各県立高等学校の特色を調べ、子どもの興味・関心や適性を生かすことができる高校を選択することが大切です。



Q2 総合学科について教えてください。

総合学科
科目を選ぶ

県立高等学校には、国語・数学などの共通科目を中心に学ぶ普通科と、工業・商業などの専門科目を中心に学ぶ専門学科、そして、幅広く開設された共通科目及び専門科目の中から将来の進路希望や興味・関心に応じて自ら科目を選択して学ぶ総合学科があります。

総合学科が設置されているのは、今市高校、小山城南高校、足利南高校、茂木高校、黒磯南高校、さくら清修高校の6校です。総合学科の特色は次のとおりです。

幅広い選択科目

○幅広い選択科目

共通科目に加え、芸術・家庭・情報等の専門科目など、幅広い科目を開設しています。（一般的な普通科の2倍以上となる100科目程度を開設）

自分だけの時間割

○自分だけの時間割

高校生として必ず学ばなければならない科目もありますが、2年次以降は複数ある系列（科目群）から大学進学や就職など自分の進路希望を実現するために必要な科目や、興味・関心のある科目を選び、自分の時間割を作ります。

産業社会と人間

○産業社会と人間

1年次に学ぶ「産業社会と人間」の授業で、生き方や将来の職業について深く考え、その実現に向けた学習計画（時間割）を立案できるようします。

Q3 専門学科の中には、どのような学科がありますか。

専門学科

専門学科には、農業・工業・商業・家庭・福祉など職業教育を主とする学科（職業系専門学科）と、理数・体育に関する科目について専門的な教育を行う学科（普通系専門学科）があります。（栃木県に設置されている主な学科は下記のとおりです。）

職業系専門学科では、企業等との連携を図りながら、充実した施設・設備を活用した実践的な教育を行っています。体験的な学習（実験・実習）を通して、社会に出てから役に立つ専門的な知識と技能を身に付けることができます。また、就職だけでなく進学にも有利な様々な資格を取得することができます。

職業系 専門学科	農 業	農業科、農業経営科、生物工学科、食料生産科、園芸科学科、食品化学科など
	工 業	機械科、電気科、電子科、情報技術科、建築デザイン科、環境土木科など
	商 業	商業科、流通経済科、情報処理科、総合ビジネス科、リゾート観光科
	家 庭	総合家庭科、服飾デザイン科、栄養食物科、食物文化科、生活文化科など
	水 産	水産科
	福 祉	社会福祉科、教養福祉科
普通系 専門学科	理 数	数理科学科
	体 育	スポーツ科

Q4 新しいタイプの工業高校（科学技術高校）について教えてください。

新しい学び方

ものづくり県である本県産業の将来を担う技術力に対応できる人材の育成等を目指して設置された工業高校です。

技術の複合化・高度化に対応するため、1年次では関連性の高い複数の学科を大きくりにした学科群（系）の中で、幅広く工業全般の基礎・基本を学びながら自分の進むべき分野を決定し、2年次からは各学科群（系）の学習内容をさらに細分化したコース（類型）に分かれ、専門性を深めていきます。

新しいタイプの工業高校は、宇都宮工業高校の1校です。

Q5 総合選択制について教えてください。

学科の枠を越えた科目選択

複数の学科が設置されている高校において、自分の所属する学科の科目を学ぶほかに、自分の進路や適性、興味・関心等に応じて、学科の枠を越えて他学科の科目を選択して学ぶことができるシステムです。

総合選択制専門高校

総合選択制の高校には2種類あります。一つは農業・工業・家庭などの専門学科のみを複数設置している総合選択制専門高校で、宇都宮白楊高校、佐野松桜高校、真岡北陵高校、那須清峰高校、矢板高校の5校があります。

総合選択制高校

もう一つは、普通科と専門学科とを併置したタイプの総合選択制高校で、普通科・専門学科の枠を越えた科目選択が可能です。普通科では、生徒全員が必ず職業系の専門科目を学ぶなど、体験的・実践的な学習を通して、職業についての理解を深め、働くことの意義を学びます。このタイプの総合選択制高校は、鹿沼南高校、足利清風高校、高根沢高校の3校です。

Q6 総合産業高校について教えてください。

各産業分野について幅広く学ぶ

生産から流通・消費までを一体として学び、一つの分野にとらわれない総合的な知識と技能を持った人材を育成することを目指して設置された専門高校です。

そのため、1年生で学ぶ1年間を自分の職業適性や将来の進路を考えるためのガイダンスの期間と位置付け、1年生全員が自分の所属する専門学科だけでなく、他学科の基礎科目も学習して各産業分野について幅広く学びます。また、2年進級時に一定の範囲内での所属学科の変更も認められています。そして、2,3年次は専門性を深めていく期間と位置付け、各自が各コース(類型)に分かれて学習します。

総合産業高校は、小山北桜高校の1校です。

Q7 フレックス・ハイスクールについて教えてください。

学習時間帯や科目の選択

昼夜間開講の定時制課程及び通信制課程を置く単位制による県立高等学校です。

定時制では、通常、1日4時間の授業を受けますが、生活に合わせて、Ⅰ部(午前)・Ⅱ部(午後)・Ⅲ部(夜間)の三つの学習時間帯を選んで入学し、100程度の多様な科目から、定められた科目や自分の学習ニーズに応じた科目を選んで学習します。定時制課程のⅠ・Ⅱ部には普通科が、Ⅲ部には普通科・商業科があり、通信制課程には普通科があります。

単位制

定時制の生徒は自分の所属する部以外の部の単位や通信制の単位を、通信制の生徒は定時制の単位を修得することなどにより、3年で卒業(定時制・通信制は通常、4年で卒業します。)することも可能です。

多様な学習ニーズに柔軟に応える学校として、働きながら学びたい生徒はもちろん、中学校時代に不登校を経験したり、高校を中途退学したりしたものの、もう一度学び直したいという生徒を支援する教育にも力を入れています。

フレックス・ハイスクールは学悠館高校の1校です。

Q8 県立高等学校の入試は、どのように変わりましたか。

特色選抜

県立高等学校では、平成26年度入学者選抜(平成25年度末に実施)から、従来の推薦入学に替わり、全日制課程の全ての学校・学科で特色選抜を導入しました。

特色選抜は、各県立高等学校が、学校・学科の募集する生徒像や資格要件等を明示し、それらに基づく選抜を行うものです。

選抜方法

出願に当たっては、従来の推薦入学では中学校長の推薦書の提出が必要でしたが、特色選抜では、これに替わって、受検者本人が記載する特色選抜志願理由書を提出します。選抜の方法については、面接を実施します。加えて、作文、小論文、学校作成問題、口頭試問、実技など、各高等学校の特色に応じた検査を行います。

学区の廃止

なお、全日制課程の一般選抜における学力検査、定時制課程及び通信制課程の入試制度については変更はありません。

また、平成27年度入学者選抜(平成26年度末に実施)から、学区を廃止しました。これにより、住む地域によって制限されることなく、自分の進路希望に応じ、主体的に学校を選択できるようになりました。

「県立高等学校入学者選抜」に関する情報は、栃木県のホームページ(下記アドレス)を御参照ください。

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/kyouiku/gakkoukyouiku/nyuugakusenkou/index.html>

夢に向かって…

中学校3年間の進路の学習では、主にこのようなことを学びます。

